

文献センター通信

第2号

2007年4月18日

私たちアナキズム文献センター(CIRA-JAPANA)

はスイス・ローザンヌのアナキズム国際文献センターから支援要請のメッセージを受け取りました。それによれば、CIRAは現在地で存続が危ぶまれており、その危機を打開するための支援キャンペーンを要請しています。

翻れば富士宮文献センターは同地(当時はジュネーブ)を訪れ帰国した仲間の発意や、七〇年の時代状況もあいまって設立されたものであり、その後もこの地の活動家や

CIRA(スイス・ローザンヌ)への支援を!

研究者は幾度にもわたりスイスCIRAを訪れています。

こうした情勢に鑑み、スイスCIRAの支援要請に「たえ、ささやかな形であっても連帯の意志を表明するとともに支援活動を行いたい」と思っています。七月には文献センターと他団体の共催でキネマフェスタが予定されており、現在このイベントをCIRA支援キャンペーンの一環とすることが可能かどうか検討中です。そのほか様々な方法が可能なと思いますが、多くの方に協力いただけるよう要請します。カンパ送付先は二頁。

主な内容

CIRAへの支援を	1
企画東京熱い夏	3
文献センター自己紹介	4
収支決算報告書	5
運営委員会議事録	6
富士宮だより	6
この人誰?	6

■CIRAよりの要請文

(一部省略しています)

スイスのローザンヌにあるCIRA (Centre International de Recherches sur l'Anarchisme / アナキズム国際文献センター)は、膨大な文献を誇る研究施設であり、アナキスト運動の記憶を後世に受け継ぐことを使命としています。CIRAの創設は50年以上も前に遡りますが、現在、思わぬ危機に直面しています。

CIRAについて この50年間、世界中のアナキストによる文献などを収集保存してきました。集めた記録物を丁寧に保存し、活動家、研究者、そしてアナキズムに関心

を抱くすべての人々が利用できるように努めてきました。20以上もの様々な言語で記録された約2万点もの本やパンフレット類、何百種類もの雑誌類(古いものでは1848年まで遡る)、映像、活動家の個人的なコレクション(手紙など)といった貴重な記録物を所蔵しています。

CIRAの歴史 1957年、当時ジュネーブに亡命していたイタリア人の良心的兵役拒否者、ピエトロ・フェルレアがアナキスト機関誌「Le Reveil」(ルイジ・ベルトーニが編集者を務めた)に関する文献や記録などを集め始めたのがCIRAの始まりだと言われています。フェルレアはその後、ジュネーブにてCIRAを創設しました。64年、フェルレアが国外退去を命じられるまで、彼はマリー・クリスティン・ミカイロと記録物の収集と研究に明け暮れました。フェルレアの国外退去後、マリー・クリ

ステインは娘のマリアンヌ・エンケルとともに運営を引き継ぎ、以後、コレクションと人脈を大幅に拡張し、何世代にも渡る訪問者がこれまでCIRAを訪れてきました。CIRAの目的は創設当時より、世界中のアナキスト組織の間にはびこる議論に巻き込まれず、中立の立場を保ちながらアナキスト運動の記憶を後世に受け継ぐことです。マリーは寛容にも自身の自宅の一部を提供し、現在にいたるまで17年間、杉林に囲まれたローザンヌの美しい旧家にて存在し続けています。

CIRAの活動 CIRAはアナキスト運動に関連する文献や画像、映像などを収集し、それらの記録物を丁寧に整理・分類し、誰もが利用できる環境を整えています。膨大なカタログはインターネット上からでも利用でき、年に一度、活動をまとめた広報を発行しています。また、ローザンヌはもとより様々な地域にてアナキズムをテーマとした講演や展示会などをも主催しています。さらに容易にアクセスできるよう、所蔵文献目録やその他研究材料となり得る参考資料を作成中です。

CIRAの運営 CIRAが存在し得ているのは、多くの記録物を当センターに提供してくれる世界中のアナキスト同志のおかげです。また、会員からの年会費やアナキスト同志からの寄付金により賄っています。当初よりCIRAはアナキスト運動の政治的／社会的／文化的な多様性をもとに発展し続け、自由な世界を目指して闘ってきた同志たちの貴重な言葉を後世に受け継ぐ重要性を常に認識しつつ活動を続けています。

CIRAの現状 CIRAが拠点を置くのは、惜しくも2年前にこの世を去ったマリー・クリスティンの自宅の一部で、現在の土地で存続し得るためには、この土地の

相続権を主張する第三者より土地を買い戻さなければなりません。土地と建物の所有権をCIRAに移すためには少なくとも15万スイス・フラン(二五〇〇万円)を集めなければなりません。さもなければ、CIRAは余儀なく場所を移さざるをえず、存続が危ぶまれる状況に追い込まれます。経費を最小限にとどめることができる同時に、特にアナキズム関連のライブラリーにとつて必要な自由な環境を保証し、活発な活動を可能にしてくれる場所は非常に稀です。

現状への対策 CIRAの存続のために、世界中のアナキスト・コレクションタイプやアナキスト協同組織などに広範囲に寄付を呼び掛けています。アナキストが最も得意とする「行動」、そして世界変革を目指す人々の源泉となる「想像力」が必要とされています。アナキス

スイス国外からの送金先: Banque
Coop, Basel/Bale/Basilea
郵便振替口座番号
310985.29.00.90-6, IBAN(国際銀行
口座番号) CH20 0844 0310 9852
9009 0 Swift COOPCH BB, Clearing
8448(小切手は受け付けられません)
CIRA-Swissと明記してください。
www.anarca-bolo.ch/
ciramail: cira(at)plusloin.org

ト同志によって世界のあらゆる地域で広範囲に、寄付金を集めるための自発的行動が起きているのを私たちは期待し、信じています。

CIRAのためにできること
CIRAの存続のためにできることは無限にあります! 今回の行動の目的は寄付金集めだけでなく、CIRAを囲むネットワークの連帯をより強固なものに、そして活発なものに発展させることでもあります。勿論、個人や個々のコレクションによる寄付も大歓迎です。

<東京熱い夏>

キネマ・フェスタ 『アナーキー』

—それぞれの映画の視点から現代の深層を撃つ—
『希望と欺瞞の間に』日本語字幕化記念)

日時：7/21 (土)、22 (日)、28 (土)、29 (日)、8/4 (土)、5 (日)

場所：poetry in the kitchen

東京都文京区水道 1-2-6 タトルビル 2F

JR 飯田橋駅より大曲交差点方面徒歩 10 分

タイムテーブル:

14:00 ~ スペイン革命ドキュメンタリー映画

『スペインの短い夏』または『希望と欺瞞の間に』

16:00 ~ ゲストトーク

16:00 ~ DVD 参考上映

入場料：1000 円 (資料込)

スケジュール:

(7月22日以外は日時未定です。また内容については変更する可能性があります)

★テーマ「ゲバラ」

『スペインの短い夏』または『希望と欺瞞の間に』

ゲスト・トーク：太田昌国さん

参考上映DVD「モーターサイクル・ダイアリーズ」(126分)

参考上映DVD「チェ・ゲバラ 人々のために」(89分)

★デビッド・ロービック来日記念コンサート

7月22日(日)決定

★テーマ「日本映画とアナキズム」

『スペインの短い夏』または『希望と欺瞞の間に』

ゲスト・トーク：平沢剛さん

参考上映：未定

★現代の運動

『スペインの短い夏』または『希望と欺瞞の間に』

ゲスト・トーク：HEX さんほか

参考上映：『関西公園～Public Blue～』(約70分)

(ドイツのアンケ・ヘルマンさん制作の関西路上生活者の記録)

参考上映：未定

★テーマ「性/別」(いわゆる「ジェンダー」)

『スペインの短い夏』または『希望と欺瞞の間に』

ゲスト・トーク：未定

参考上映：「ボンクィア」(10分) ほか

★テーマ「映像でみる大正アナキズム」

『スペインの短い夏』または『希望と欺瞞の間に』

ゲスト・トーク：未定

参考上映：「大虐殺」(1960年、94分)

(ギロチン社登場の劇映画)

主催：キネマ・フェスタ実行委員会(暫定的)

<アナキズム文献センター、IRREGULAR RHYTHM ASYLUM >

協力：アナキズム編集委員会

寄贈書

■平井佐佐子氏より

・平井征夫『バルセロナ日記』リベロイ社、二〇〇三年

■上村健彦氏より

・日本アナ連第一〇回全国大会の寄書き葉書、一九六〇年

■由井格氏より

・「東京行動戦線」一〇五号

■唐沢隆三氏より

・色紙 植村諦 一九五七年一月

八月 『無風帯』二号、同一九四八年六月

五月 『資料社会運動史』同年? 六月 六号 『資料社会運動史』一九五九年一月

・『無風帯社ニュース』一号、無風帯社(東京・新宿/西山雄太郎)一九四六年七月

・『夢』一〇六号、(名古屋市/伊患英治)同一九五七年九月

・唐沢富美子編『大杉くま追想集・やまゆり』ソオル社、一九七〇年

『無風帯社ニュース』二号、同九月

『水島流吉の覚え書』同一一月

『資料社会運動史』同年五月

『無風帯』一号、同一九四七年

『愛知県社会運動者略伝』同年三月

唐沢隆三『自由律俳句史雑記』ソオル社、一九七一年

文献センター 自己紹介

「文献センターって……？」への答えをかねて、簡潔な自己紹介をしておこう。

文献センターは一九七〇年にその活動を開始している。「反権力・反国家・絶対自由の思想と運動」に関する過去および現在の文献、資料、運動紙誌を収集・整理し、その完全な保存を図るとともに、利用者によく公開することを目的とし、翌七一年に富士山の麓、静岡県富士宮市に五坪余の書庫が建設され、合わせて資料・文献類の収集と整理にも着手された。その後、活動の停滞と休眠状態を繰り返しつつも、センターを管理する龍武一郎氏の持続的営為に支えられて、九五年には一〇坪余りの独立専用書庫が建設され、山積み状態となっていた文献は棚に移され、今

日に至っている。ここで正確な蔵書数を報告できないのは、蔵書の増加に整理が追いつかないからである（今年の七月まで文献センター 自己紹介とその歩みに単行本の蔵書目録がまとまる）。書籍に限ればすべて開架式の本棚に配列されているから、利用に不便はない。その他の新聞やチラシ、ビブ、そしてミニコミ類となると、十分に整理されているとは言えないものの、これらもかなりファイルされているので、箱詰めのままの資料はさほど多くはなくなった。

センターの所在地は龍氏の日本一小さなユースホステル「ふもとの家Y. H」で、その敷地内に書庫は置かれている。事前に連絡の上、利用することができる。文献目録はまだ作成されていない。

住所：静岡県富士宮市
杉田二五一 龍武一郎 気付
電話：〇五四四（二七）四三二四
FAX：〇五四四（二七）四四四五

メールアドレス：
ryo@go.shizuokanet.ne.jp
ホームページ：
<http://cira-japan.net/>

センターの中身について、「三補足しておく」と、所蔵資料はその多くが寄贈されたものである。センターに関わった人々やその周辺からの個人による寄贈であり、もっともまとまったものとしては長谷川進さんの蔵書がある。また近年では、沼津にあった山鹿泰治さんの山鹿文庫がセンターに移された。いずれもセンターの趣旨に沿って体系的に購入されたものではないので、不可欠と考えられる基本文献に欠くこともあるかと思われるが、それでも全体として見るなら、アナキズムをテーマに「カ所に収蔵されたもので比肩できる蔵書はあまりないのではないか。このような文献センターがいま取り組みつつある課題は、「センター」に付随する諸活動」の活性化

を通じて「センターの法人化」を実現することと言える。この点はいま少し詳しく触れておく必要があるろう。

二〇〇五年七月にセンターのある富士宮で集会がもたれ「文献センターの存続」が議論された。背景には、設立以来センターを地元で支えてきた龍武一郎はもとより、これまで周囲にあつて活動を担い、かつ協力してきた人々の高齢化という現実があり、現状のままではセンターの存続が覚束ないという危機感が生じてきたことがある。センターを今後どのようにしていくのか、存続させるためには最小限の組織化が必要ではないか、などが話し合われ、その後の継続された討議を通じて先述の課題に集約され、いくつかの活動が積み重ねられつつあるのが文献センターの現状である。

（次回からは、設立までの経緯について記す予定）

富士宮だより

年一二月末には、和文単行本の目録登録数が二千冊となりホツとひとだんらしく。ただ、センターは火気厳禁のためストーブの使用禁止。

二〇〇五年の第一回富士宮集会で深夜まで続いた飲み会の席で、センターのために富士宮に来るつもりがある、と口にしたのが運のつき。○六年三月末でそれまでの仕事を辞めるも直ぐには動けず、ぐずぐずと一〇日間程パソコンゲームで一日中過ごし、プチ引きこもり状態になった。

何とかせねばと、何度か東京に出て、マンガ喫茶で寝泊りしながら登録制の日雇いの仕事をしていった。六月に入ってやっと踏ん切りをつけ、富士宮の住人となり、今は、派遣社員として工場で働किながらセンターの作業を続けています。

最初のうちは仕事・生活ともに余裕がなく、そのためかセンターの作業に打ち込めたようで、○六

寒さには勝てず、真冬の作業は一時中断してセンターの分室と化したアパートで、パンフレットの整理と、平井文庫のページ数とサイズを調べることにした。

現在、二千三百冊とあまり進展していないが、和文単行本の残りは五百冊ぐらいで終わりそうです。欧文単行本に関しては語学堪能な方々のご協力をお願いするところです。

このセンターの一連の動きの中で、私が二十歳の頃にアナキストクラブで知り合った戸田三三冬さんからアナキストクラブとして整理していききたいものがあると話があり、昨年九月から三回、綿引さん、岩佐老人の写真の整理を行ってきた。今後も布留川信さんの蔵書目録作りや、アナキストクラブ

の遺産？の整理・保存・目録作成等の作業をアナキストクラブの例会として続けていくことになりました。

富士山に来たなら、やはり富士山を楽しまなければ。とはいえ食べることにしか興味のわかない私。二〇年居前に龍さんが呼びかけて、皆で楽しんだコケモモ採り、たらの芽の天ぷら。

去年の秋にはまずコケモモ・マ

タタビ・サルナシ等の木の実を果実酒につけ、アマタケ・ハナイグチ・アイタケ・シモフリシメジ・ナラタケ(この辺りではアシナガと言う)など一〇種類以上のキノコを塩漬けにして、キノコ飯やキノコ汁で楽しみました。今はたらの芽やツクシを毎週採りに行って天ぷらなどに。

四月のセンターは、朝からキジ・コジュケイ・ウグイスの鳴き ★

アナキズム文献センター収支決算報告書

(2006年7月8日～2006年12月31日)

【収入の部】

繰越金(準備会及び旧センター)	152,833
会費(1口1000円×87口(24名))	87,000
カンパ	15,100
合計	254,933

【支出の部】

通信費(送料、サーバ代など)	1,655
消耗品(センターサッシ代)	9,100
その他出金(DVD変換費用、振込手数料負担等)	18,135
残金(次年度へ繰越し)	226,043
合計	254,933

※カレンダー制作代金は除く

上記の通り報告いたします。

2006年12月31日 会計担当：古屋

運営委員会議事録 (抄)

一 一月運営委員会

二〇〇六年一月一八日
○会員募集について

○七年版カレンダーをこれまでの協力者に送り、販売・購入等での協力を要請する。併せて会員募集の告知などとセットでニュースとともに送付することとした。

○整理作業について

古い写真の複写や写真内容の確認などについて、手順書を作成する。なお、デジタル部会（カメラ班）でデジタルカメラを購入したので、写真のデジタル化を進めていく。

○「平井文庫」について

目録データをネット公開する。また、目録を少数数発行する案も。やはりインターネットに流すだけでは不十分で、蔵書を寄贈してくださった方へのお礼という意味で

も、そういう習慣をつけていく。

○データベースについて

近日中のサンプル目録の公開に向け、富士宮にて順調に入力作業中である。

一 二月運営委員会

二〇〇六年二月一六日
○データベースについて

現在入力中のデータを校正、別々の所で入力したデータを一本化する。来年のゴールデンウィークに現物と照合し、データを最終チェック。これではほぼ完成となる。その後はホームページでも公開（会員のみにするかどうかは未定）、さらに紙媒体でも発行していく。

○センターの振込口座（郵便局口座）について

住所とともに口座も東京の新宿中央郵便局に移管する。手続き担当を決めた。

なお、当分の間は、センターの住所として三月工場の住所を借りることとした。

○通信（紙）について

季刊とし、担当を決めた。今後は、ホームページ（その中の会員用ページ）をメインとし、希望する人には紙を郵送するというスタンスにしていく。紙の内容は、その発行時期までのウェブ情報を中心とする。

一 月運営委員会

二〇〇七年一月二〇日

○郵便振替口座の移転について

口座名は「アナキズム文献センター」、住所は三月工房、代表者名は奥沢。銀行口座も開設する。

○カレンダーの会計・精算

独立会計にし、今後のイベントに関しても、文献センターの会計

★ 声が響き、桜の老木が満開になりメジロやヒヨドリが蜜を吸いに集まり、椿やヤマブキなどの多くの花に囲まれています。作業の合間に庭に出ると心が和み、そこに龍さんの奥さんがいると、つい景色を眺めながら長話をしてしまい作業終了なんてこともよくあります。（山田崇正）

作業メモ

'06年

10月2日 平井文庫の本届く（ダンボール20余箱分）。神戸の平山さんたちが荷造りを手伝い宅配便にて。とりあえず富士宮の分室に収まる（センターは目録作成中で混乱を避けるため）。と、作業スペース確保のため。

12月 平井文庫の蔵書リストをホームページ上で公開。

11月10〜12日 センター蔵書中のダブル本と（今回の）目録対象外の資料数をダンボール詰め

とは独立させる。

来年のカレンダーの検討を始め、判型などの決定をしておく。GW明けに始めて、五、六月に制作。直ちにアイデア、素材・画像を集める。

○ホームページについて

レンタルサーバーの容量があと残りわずかになっているので、五〇〇MB分増設することを決定。

○上映会について

スペイン革命に関する映画「スペインの短い夏」希望と欺瞞の間に」の二本を中心に、ほかの商業映画を併映するのだろうか。たとえば、ジェンダーなどのテーマを決めて、最初にスペイン、次に間に解説などを入れて別の映画を上映する。上映部会(仮)立ち上げ。

二月運営委員会

二〇〇七年二月一七日

○龍さんの提案について

龍さんより事前に「アナキズム

文献以外の文芸作品(小説・詩集)などの取扱い」などについて提案があった。現在進行中の文献整理を進めていき、必要のないものはその過程で判断していく。

○アナキズム年表について

担当者が決定。戦後アナキズム史の二〇〇七年を中心に年表を作成する。データベースに外からアクセスして年表に追加・修正などができるようにする。

○シネマイベント(キネマ・フェスタ「アナキズム」)について

七月にアメリカのフォーク歌手||デビッド・ローヴィックが来日してライブなどを予定している。それに合わせてもいいのではないかと、という企画が出された。

○アナキストブックフェア

三月に開催される米アナキストブックフェアに文献センターとしても参加する(ブースにて出展)。ブックフェアには、アメリカの主要な出版社、本屋(ヨーロッパ

からも)が参加する。カレンダーほか、ポストカードなどのグッズも売る予定。

三月運営委員会

二〇〇七年三月一七日

○カレンダーについて

まずは二〇〇七年版の集約を急ぐ。その結果を踏まえて次年度の計画を立案する。

○シネマフェスタについて

「アナキズム誌」と共催にする。

○本家CIRAの窮状について
スイスの本家CIRAより、アナキズムの窮状について要請文が届いた(内容は一〇二ページ)。文献センターとして、シネマイベントと合わせてカンパ要請をしたらどうか?

○GW作業合宿(於・富士宮)

五月二日夜から六日午前中まで富士宮のセンターにて、現物とデータベースの照合作業を行う。(八ページ参照)

(30箱余)にして分室へ運ぶ(目録作業のスペース確保のため)。

現地・山田、東京から佐藤、奥沢が参加。

12月9日 唐沢隆三さんより資料

提供の話があり、仲介していただいた白仁さんと古屋・奥沢が同行(寄贈リストは別掲)。

12月10日 岩佐・綿引旧蔵写真の整理(戸田三三冬宅)。富士宮から龍、山田、東京から古屋、奥沢が参加。

07年

3月25日 岩佐・綿引旧蔵写真の整理(戸田三三冬宅)。富士宮から山田、東京から古屋、奥沢、飛矢崎が参加

4月7日 資料整理(ダンボール3箱余)およびファイルの検討作業。現地・山田、東京から奥沢。ツクシの天プラ、和え物、タラの芽は1週間ほど早く秘蔵の木より特別採取して天プラ。9日は清水港視察。

